

# 空中計測・マッピング部会

空中計測・マッピング部会 部会長 大鋸 朋生  
航空レーザ WG 長 川村 啓一  
MMS\_WG WG 長 阿部 亮吾

## 1. はじめに

本部会は、測技協の自主研究や受託研究等による新技術開発、標準化、普及啓発を活動目的とする技術委員会所属の部会で、写真測量・地図調整全般を対象分野とする部会と活動分野を特化したWG（航空レーザWG、MMS\_WG）の1部会2WG体制で活動しています。

部会・WGともに主に航空機や車両に搭載するタイプのセンサに関する先端測量技術を中心に最新機器の調査、計測手法や空間データ整備の標準化検討、品質・利活用に関する提言活動を通じた普及・啓発に取り組んでおり、必要に応じて関係省庁との意見交換会も実施するなど、部会・WGに参加する企業とメンバーが魅力を持てるよう業務分野の環境向上を目指しています。このほか、関連省庁等からの相談窓口としても機能しています。

## 2. 部会・WG活動について

### (1) 空中計測・マッピング部会

写真測量分野全般を活動対象とする空中計測・マッピング部会では、技術の進展に伴う最新の測量技術の掌握と標準化（マニュアル案策定）、積算基準検討などを主な活動としており、2025年度は5回の定例部会と3回の臨時部会、5回の意見交換会を行いました。

近年では、技術的課題の広がり背景として他部会と共通する課題が増えていることを踏まえ、衛星リモートセンシングWGとは4回の部会と1回の臨時部会を共同実施しました。測量近代化研究会では、写真測量WGが空中写真測

量において測量技術の進展を踏まえた作業規程の準則の在り方に関する技術的な課題を提起し、国土地理院との意見交換を継続しています。

このほか、2009（平成21）年に航空レーザ計測分野で始まった大韓民国の空間情報分野技術者との交流事業では、交流分野が空間情報分野全般に広がっていることを踏まえ、2023年度からは3次元GIS部会と連携しており、総開催回数は14回を数えます。

2025年度に審議・検討された議題は以下の通りです。

- ・緊急災害対応（巨大地震を見据えた空撮案作成等）
- ・衛星データ活用に関する課題の検討（衛星リモートセンシングWGとの連携）
- ・測量近代化研究会に関する協議（空中写真測量の課題に関する検討）
- ・日韓空間情報フォーラム（3次元GIS部会との連携）：図1
- ・積算ハンドブック更新（修正測量）
- ・積算ハンドブック（新章執筆の検討）
- ・国土地理院との意見交換会（3次元電子国土基本図、作業規程の準則「空中写真測量」）

### (2) 航空レーザワーキング

航空機搭載型レーザ計測機材の保有・運用者で構成されるWGでは、航空レーザ計測技術（航空レーザ測量および航空レーザ測深測量）の技術課題検討・普及を基本方針としており、同業者との交流や新技術や最新動向の把握などを通して、日々の業務に役立つ航空レーザ計測技術の研鑽を図っています。また、航空レー

ザ測量データの利活用促進のため、「航空レーザ測量データポータルサイト」を毎年更新しています。WG内にALB（航空レーザ測深）サブワーキングがあり、ALBの技術課題を検討するとともに積算ハンドブックの更新を行いました。定例WGを5回、臨時WGを2回、意見交換会を1回、勉強会を1回行いました。

2025年度に審議・検討された議題は以下の通りです。

- ・航空レーザ測量データポータルサイト更新
- ・航空レーザ計測システムおよびALB保有機器の調査
- ・積算ハンドブック更新（航空レーザ測量、航空レーザ測深測量）
- ・標準製品仕様書（航空レーザ測量）の改定
- ・標準製品仕様書（ALB）の作成
- ・情報共有勉強会（最新機器情報や海外事例等）
- ・国土地理院との意見交換会（都市部における航空レーザ測量に関する留意点）

(3) MMSワーキング

MMS（車載型レーザ計測車両）の保有・運用者で構成されるWGでは、高密度三次元点群を用いるセンシング技術による道路周辺の3次元データ作成の検討、標準データ形式の検討、積算基準の見直し、MMS市場の活性化を目指

して活動しており、2025年度は、MMS同様に地上から高密度三次元点群にアプローチする地上3次元計測WGと連携し、三次元データに関する需要の掘り起こしを目指しました。2025年度は、定例WGを3回、意見交換会を1回、勉強会を1回行い、地上3次元計測WGにも2回参加いたしました。

2025年度に審議・検討された議題は以下の通りです。

- ・積算ハンドブックの更新
- ・作業規程の準則を運用する上での諸検討
- ・情報共有勉強会（バックパック・ハンディ勉強会）：図2左
- ・国土地理院との意見交換会（準則条文化以降の技術進展に伴う課題の提起等）：図2右
- ・地上3次元計測WGへの有志による参加

3. おわりに

このように、部会・WGは社会・技術動向を踏まえ時宜にあわせた“旬”となる話題提供を目指して活動していますが、近年ではいままでの部会活動の枠を超えて他部会・WGとの共同の取り組みが増えつつあるほか、部会・WG参加者や外部機関等からの意見照会や測技協の受託業務等への支援などに取り組んでいます（表1）。

表1 2025年度の部会・WG活動履歴

技術研究部会・WG	参加企業数	メンバー数	開催日 <sup>*1</sup>
空中計測・マッピング部会	47	64	[4/21], 5/27, [7/7], [7/23], (8/8), ([8/8]), ((9/11)), [9/17], [9/30], [10/23], [11/26], (12/5), [1/20], [1/27]
航空レーザWG (ALB SWGを含む)	12	31	5/28, 6/27, 8/22, 10/31, 12/19, (12/25), (1/8), [1/8], (1/19)
MMS WG	29	43	5/27, 7/8, [7/28], 9/9, (11/20), (1/15)

\*1 無印：単独開催、( )：臨時、(( ))：国際フォーラム、[ ]：意見交換会、[ ]：共同開催、< >：他WGに合流



図1 第8回日韓空間情報フォーラム 参加者記念撮影



図2 MMSワーキング（左：勉強会、右：意見交換会）